

事務事業実績測定調査

事務事業名称	河川改良事業											
測定年度	2020(R2)年度			部	土木部				課	道路河川整備課		
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2		R3		R4				
総合計画体系	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち										
	施策目標	1.災害に対する備えができています										
	実行計画名	1-3.水施策の推進										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2015(H27)年度		年度	~	年度まで
根拠法令等	河川法				
関係補助金名称			サンセット		~
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	準用河川に隣接・近接する土地に居住する市民・事業者等			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	準用河川に隣接・近接する土地に居住する市民・事業者等の生命や財産が守れるように必要な河道改修や護岸工事などの河川整備を求められる。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	台風・豪雨などの自然災害に対する被害の抑制・軽減により、準用河川に隣接・近接する土地に居住する市民・事業者等が安全・安心して生活を送ることができる。				
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 枚方市が管理する準用河川の現況能力と課題を把握するため、枚方市準用河川整備基本計画を策定し、計画的に河道改修や護岸工事などの整備事業を推進することで、自然災害に強い河川環境の保全を図る。 				

2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル		準用河川整備が進むにつれて、段階的に隣接・近接する土地に居住する市民・事業者等が安心して生活を送ることができる。				計画通りに準用河川整備を進めることができる。				準用河川整備を実施。			
指標説明		準用河川整備事業全体の進捗率 【算出式:実績延長距離の合計/各年度における計画の準用河川整備延長距離の合計×100】				各年度における計画の準用河川整備延長距離に対する実績延長距離の割合 【算出式:実績延長距離/各年度における計画の準用河川整備延長距離×100】				準用河川整備延長距離 ※計画策定中は「0」と表記			
指標設定	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実績	0				0				0			
	達成度	0%				0%				0%			
分析	R2年度に枚方市準用河川整備基本計画策定業務委託を実施し指標となる「各年度における計画の準用河川整備延長距離の合計」を把握				R2年度に枚方市準用河川整備基本計画策定業務委託を実施し指標となる「各年度における計画の準用河川整備延長距離」を把握				R2年度に枚方市準用河川整備基本計画策定業務委託を実施し指標となる「準用河川整備延長距離」を把握				

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.65
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	159	3,207	5,184		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	159	3,207	5,184		
	物件費計	0	0	10,340	12,000	86%	
	歳出計	159	3,207	15,524			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	0	0	0	0		
一般財源		159	3,207	10,340	12,000		

5. 総括的分析

総括的分析	R2年度に実施した枚方市準用河川整備基本計画策定業務委託の結果を部内で共有し、今後の事業展開について検討が必要。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	見直し
今後の取組方針	安全確保の観点からの緊急性や整備基本計画に基づいた実行性、健全な財政運営を見込んだ中長期の整備計画に基づく計画性などの視点により、財政状況も踏まえた上で総合的に判断し、整備順序や事業化の時期を検討していく。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	長尾杉線整備事業												
測定年度	2020 (R2) 年度			部	土木部				課	道路河川整備課			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2	R3		R4						
総合計画体系	基本目標		1.安全で、利便性の高いまち										
	施策目標		4.安全で快適な交通環境が整うまち										
	実行計画名		4-1.道路などの整備の推進										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業							
事業期間	2014 (H26) 年度			年度	～ 年度まで							
根拠法令等	都市計画法											
関係補助金名称												サンセット
関係附属機関名称												
事業対象	メインターゲット	東部地域の国道307号、国道1号バイパス及びその周辺道路を利用する利用者。										
	サブターゲット											
	ターゲットが抱える課題	国道307号、国道1号バイパスに交通渋滞が発生しており、防災機能が損なわれている。										
	ターゲットが抱える課題											
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	国道307号、国道1号バイパスの交通渋滞が解消され、第二京阪道路へのアクセス道路として、地域住民の利便性や防災機能が向上されている。											
事業概要	<p>【～平成28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(都) 牧野長尾線・長尾東町地内と国道307号((都) 枚方東部線)・杉責谷地内を結ぶ東部地域の幹線道路として延長約1.7km、幅員14m及び17mの都市計画道路として整備を検討する。 ・交通量調査や将来の道路ネットワークを検証して、予測交通量を算定するとともに、その結果をもとに道路の規模やルート選定を行い、整備計画を作成する。また、費用対効果を算定した上で都市計画道路としての整備を検討する。 <p>【平成29年度～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(都) 牧野長尾線から国道307号まで(L=1,750m、W=14、16m)の都市計画道路整備を行う。 											

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	長尾杉線の整備が進むにつれて、段階的に地域住民の利便性や防災機能が向上されている。				アウトプット (活動結果)	計画通りに長尾杉線の整備を進めることが出来る。				インプット (活動)	長尾杉線の整備を実施する。			
	指標説明	長尾杉線整備事業全体の進捗率				アウトカム (活動効果)	各年度における計画整備延長距離に対する実績整備延長距離の割合				インプット (活動)	長尾杉線の整備延長距離			
指標設定	指標種類	増加することが良いとされる指標				アウトカム (活動効果)	増加することが良いとされる指標				インプット (活動)	増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5		
	目標 (見込み)	20	40	60	100	100	100	100	100	437.50	437	437	438		
	実績	0				0				0					
	達成度	0%				0%				0%					
分析	関係機関、地元関係者との協議調整に想定以上に時間を要したため進捗が遅れた				関係機関、地元関係者との協議調整に想定以上に時間を要したため進捗が遅れた				関係機関、地元関係者との協議調整に想定以上に時間を要したため進捗が遅れた						

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	1.06
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.20
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	5,732	7,113	8,454		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	429		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	5,732	7,113	8,883		
	物件費計	45,214	292,939	185,000	399,400	46%	
	歳出計	50,946	300,052	193,883			
歳入	国庫支出金	20,086	99,620	61,218	122,618		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	177,300	102,600	244,400		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	20,086	276,920	163,818	367,018		
一般財源		30,860	23,132	21,182	32,382		

5. 総括的分析

総括的分析	関係機関、地元関係者との協議調整に想定以上に時間を要したため進捗が遅れが生じ、目標には届かなかったが、次年度で一部目標を達成する予定。 目標達成に向け、引き続き事業を進める。財政状況などを踏まえ、今後、指標の見直しは必要。 【実績】用地取得に向けた用地交渉、道路整備工事(L=60m)について着手した。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、関係者との協議、用地取得、道路整備工事を進める。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	御殿山小倉線整備事業												
測定年度	2020(R2)年度			部	土木部				課	道路河川整備課			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4					
総合計画体系	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち											
	施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち											
	実行計画名	4-1.道路などの整備の推進											

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	2014(H26)年度		年度	~	年度まで
根拠法令等	都市計画法				
関係補助金名称			サンセット		~
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	中部地域の京阪御殿山駅から小倉東町地区までの周辺道路を利用する利用者。			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	地域周辺道路では、地域住民・通学者の通行が多いことや、また通過交通が非常に多く狭小な道路でもあるため、安全確保が必要である。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	中部地域の交通網の強化が図られ、安全な交通環境として通学路が確保されている。				
事業概要	・市道渚星ヶ丘線から市道甲斐田三栗線まで(L=840m、W=14m)の都市計画道路整備を行う。				

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)	
	御殿山小倉線整備が進むにつれて、段階的に中部地域の交通網の強化が図られ、安全な交通環境として通学路が確保されている。	計画通りに御殿山小倉線の整備を進めることができる。	御殿山小倉線の整備を実施。	
指標設定	指標説明	御殿山小倉線整備事業全体の進捗率	各年度における計画整備延長距離に対する実績整備延長距離の割合	御殿山小倉線の整備延長距離
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	指標数値	単位 %	単位 %	単位 m
	目標(見込み)	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5
	実績	17 34 50 68	100 100 100 100	210 210 210 210
	達成度	0	0	0
分析	財政状況を踏まえ計画を見直したため、目標値の達成は出来なかった。	財政状況を踏まえ計画を見直したため、目標値の達成は出来なかった。	財政状況を踏まえ計画を見直したため、目標値の達成は出来なかった。	

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.70
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	8,913	5,109	5,583		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	8,913	5,109	5,583		
	物件費計	193,990	145,542	173,681	186,405	93%	
歳出計		202,903	150,651	179,264			
歳入	国庫支出金	69,259	2,000	6,950	18,750		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	103,400	142,400	164,600		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	69,259	105,400	149,350	183,350		
一般財源		133,644	45,251	24,331	3,055		

5. 総括的分析

総括的分析	目標達成に向け、引き続き事業を進める。財政状況などを踏まえ、今後、指標の見直しは必要。 【実績】本整備に向けた、車両進入を行うための伐採工事を進めた。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、関係者との協議、道路整備工事を進める。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	春日大峯線道路拡幅事業													
測定年度	2020 (R2) 年度				部	土木部				課	道路河川整備課			
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2		R3		R4						
総合計画体系	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち												
	施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち												
	実行計画名													

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業	
事業期間	2018 (H30) 年度		年度	~	年度まで	
根拠法令等	決裁					
関係補助金名称					サンセット	~
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	市道春日大峯線を利用する市民・事業者等				
	サブターゲット	—				
	ターゲットが抱える課題	市道春日大峯線は交通量が多い一方で幅員が狭小であり、円滑な交通の流れとなっていない。				
	ターゲットが抱える課題					
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	市道春日大峯線を利用する市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている。					
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 市道春日大峯線の拡幅整備事業を行う。 ◇ 計画の道路拡幅整備延長距離の合計:L=120m ◇ 実績延長距離の合計:L=36m ◇ R1年度整備予定延長距離:L=12m 					

2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル		道路拡幅整備が進むにつれて、段階的に利用する市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている。				計画通りに道路拡幅整備を進めることができる。				道路拡幅整備を実施。			
指標設定	指標説明	道路拡幅整備事業全体の進捗率 【算出式:実績延長距離の合計/各年度における計画の道路拡幅整備延長距離の合計×100】				各年度における計画の道路拡幅整備延長距離に対する実績延長距離の割合 【算出式:実績延長距離/各年度における計画の道路拡幅整備延長距離×100】				道路拡幅整備延長距離			
		単位 %				単位 %				単位 m			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)	40	40	40	40	0	0	0	0	0	0	0	0
	実績	0				0				0			
達成度	0%				0%				0%				
分析	事業内容に応じた財源(国費)の確保が困難であったため、事業を進められなかった。				事業内容に応じた財源(国費)の確保が困難であったため、事業を進められなかった。				事業内容に応じた財源(国費)の確保が困難であったため、事業を進められなかった。				

3. 人員体制 (人)

	R2
正職員(再任用)	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	3,419	5,291	0	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人件費計	3,419	5,291	0	
	物件費計	30,560	6,612	0	0	—
	歳出計	33,979	11,903	0		
歳入	国庫支出金	0	1,492	0	0	
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	3,500	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計	0	4,992	0	0	
	一般財源	33,979	6,911	0	0	

5. 総括的分析

総括的分析	今後の事業展開について検討が必要。
-------	-------------------

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	地権者の動向や財政状況等を勘案し、事業の着手(再開)時期を検討していく。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	中振交野線整備事業											
測定年度	2020 (R2) 年度			部	土木部			課	道路河川整備課			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4				
総合計画体系	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち										
	施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち										
	実行計画名	4-1.道路などの整備の推進										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	2015 (H27) 年度		年度	~	年度まで
根拠法令等	都市計画法				
関係補助金名称			サンセット		~
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	南部地域の府道八尾枚方線及び市道周辺(狭小な道路)を利用する利用者。			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	地域周辺道路では、地域住民・通学者の通行が多いことや、また通過交通が非常に多く狭小な道路でもあるため、安全確保が必要である。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	京阪本線連続立体交差と連携した南部地域の交通網の強化を図り、通学路の確保や地域住民の利便性と防災機能が向上される。				
事業概要	府道八尾枚方線から市道南中振21号線及び市管理道路まで(L=600m、W=16m)の都市計画道路整備を行う。 (・開発公社長期保有地があり、買戻しを進めると共に取得済用地の適正な管理を行う。)				

2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル		中振交野線の整備が進むにつれて、京阪本線連続立体交差と連携した南部地域の交通網の強化を図り、通学路の確保や地域住民の利便性と防災機能が向上される。				計画通りに中振交野線の整備を進めることが出来る。				中振交野線の整備を実施。			
指標設定	指標説明	中振交野線整備事業全体の進捗率				各年度における計画整備延長距離に対する実績整備延長距離の割合				中振交野線の整備延長距離			
		単位		%		単位		%		単位		m	
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	40	40	70	100	100	100	100	100	120	0	90	90
	実績	0				0				0			
	達成度	0%				0%				0%			
分析	関係機関、地元関係者との協議調整に想定以上に時間を要したため進捗に遅れが生じた				関係機関、地元関係者との協議調整に想定以上に時間を要したため進捗に遅れが生じた				関係機関、地元関係者との協議調整に想定以上に時間を要したため進捗に遅れが生じた				

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.90
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	6,527	6,311	7,178		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	6,527	6,311	7,178		
	物件費計	237,108	170,332	139,442	119,000	117%	
	歳出計	243,635	176,643	146,620			
歳入	国庫支出金	47,841	11,161	11,666	11,666		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	129,400	105,400	97,900		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	47,841	140,561	117,066	109,566		
一般財源		195,794	36,082	22,376	9,434		

5. 総括的分析

総括的分析	<p>関係機関、地元関係者との協議調整に想定以上に時間を要したため進捗が遅れが生じ、目標には届かなかったが、次年度で目標を達成する予定。 目標達成に向け、引き続き事業を進める。財政状況などを踏まえ、今後、指標の見直しは必要。 【実績】用地取得に向けた用地交渉、道路整備工事(L=176.5m)について着手した。</p>
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、関係者との協議、用地取得、道路整備工事を進める。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	道路改良整備事業													
測定年度	2020(R2)年度				部	土木部				課	道路河川整備課			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4						
総合計画体系	基本目標		1.安全で、利便性の高いまち											
	施策目標		4.安全で快適な交通環境が整うまち											
	実行計画名													
1. 事務事業の概要														
種類	市民サービス			特性	選択的事業				区分	一般事務事業				
事業期間	不明			年度	~				年度まで					
根拠法令等	決裁													
関係補助金名称	サンセット													
関係附属機関名称														
事業対象	メインターゲット		法定外公共物や橋梁などの道路構造物を利用する利用者。											
	サブターゲット													
	ターゲットが抱える課題		災害等による損傷した道路構造物については安全確保が必要である。											
	ターゲットが抱える課題													
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	損傷した道路構造物を補修することで、安全で安心な道路構造物を維持できている。													
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・法定外公共物(里道)の改良工事を行う。 ・市道の維持補修工事に該当しない道路改良工事を行う。 ・道路構造物(橋梁等)の補強工事を行う。 													
2. ロジックモデル及び指標設定														
ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)					
	損傷した道路構造物を補修することで、安全で安心な道路構造物を維持できている。				各年度において、計画通りに損傷した道路構造物を補修を行う。				損傷した道路構造物を補修する。					
指標設定	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)					
	補修を行った道路構造物に対して市民が安全安心に利用できていると感じている割合				各年度における補修対象となる整備への対応率				補修件数 (これまで事例をもとにした年間予想件数)					
	単位 %				単位 %				単位 件					
	指標種類 減少することが良いとされる指標				減少することが良いとされる指標				減少することが良いとされる指標					
	指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)		100	100	100	100	100	100	100	100	1	1	1	1
	実績		100				100				1			
達成度 100%				100%				100%						
分析 想定通りであった。				想定通りであった。				想定通りであった。						

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.25
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の person 費については、人員配置をもとに平均 person 費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「person 費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員 person 費」「臨時職員 person 費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は person 費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	2,147	2,886	1,994	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人件費計	2,147	2,886	1,994	
	物件費計	46,706	20,310	18,563	11,862	156%
	歳出計	48,853	23,196	20,557		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計	0	0	0	0	
	一般財源	48,853	23,196	18,563	11,862	

5. 総括的分析

総括的分析	事業用地の維持、管理を適切に行った。
-------	--------------------

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、安全で安心な道路構造物を維持するため管理を行う。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	牧野長尾線整備事業												
測定年度	2020(R2)年度			部	土木部				課	道路河川整備課			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2	R3		R4						
総合計画体系	基本目標		1.安全で、利便性の高いまち										
	施策目標		4.安全で快適な交通環境が整うまち										
	実行計画名		4-1.道路などの整備の推進										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	1994(H6)年度		年度	~	年度まで
根拠法令等	都市計画法				
関係補助金名称					サンセット
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	市域北部の府道 高槻茨木線、JR長尾駅周辺を利用する利用者。			
	サブターゲット				
	ターゲットが抱える課題	府道 高槻茨木線、JR長尾駅周辺に交通渋滞が発生している。また、住宅地内に狭小な道路も多くあり安全確保が必要である。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	府道 高槻茨木線、JR長尾駅周辺の交通渋滞が緩和され、地域住民の利便性と防災機能の向上や通学路が確保されている。				
事業概要	・八田川バイパスから府道枚方高槻線まで(L=1,450m、W=16m)の都市計画道路整備を行う。				

2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル		牧野長尾線の整備が進むにつれて、段階的に地域住民の利便性と防災機能の向上や通学路が確保されている。				計画通りに牧野長尾線の整備を進めることが出来る。				牧野長尾線の整備を実施。			
指標設定	指標説明	牧野長尾線整備事業全体の進捗率				各年度における計画整備延長距離に対する実績整備延長距離の割合				牧野長尾線の整備延長距離			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	単位	%			単位	%			単位	m		
		見込み	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4
	実績	21	21	58	79	100	100	100	100	200	0	350	200
	達成度	0%				0%				0%			
分析	関係機関、地元関係者との協議調整に想定以上に時間を要したため進捗に遅れが生じた				関係機関、地元関係者との協議調整に想定以上に時間を要したため進捗に遅れが生じた				関係機関、地元関係者との協議調整に想定以上に時間を要したため進捗に遅れが生じた				

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	1.01
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	5,335	9,117	8,055		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	5,335	9,117	8,055		
	物件費計	651,012	426,139	760,401	796,000	96%	
	歳出計	656,347	435,256	768,456			
歳入	国庫支出金	226,025	88,543	97,717	88,717		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	284,600	590,600	639,100		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	226,025	373,143	688,317	727,817		
一般財源		430,322	62,113	72,084	68,183		

5. 総括的分析

総括的分析	<p>関係機関、地元関係者との協議調整に想定以上に時間を要したため進捗に遅れが生じ、目標には届かなかったが、次年度で目標を達成する予定。 目標達成に向け、引き続き事業を進める。財政状況などを踏まえ、今後、指標の見直しは必要。 【実績】JRアンダーパス工事完了。用地取得に向けた用地交渉、道路整備工事(長尾播磨谷地区L=130m)(長尾東町地区L=110m)について着手した。</p>
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、関係者との協議、用地取得、道路整備工事を進める。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	枚方藤阪線整備事業												
測定年度	2020(R2)年度			部	土木部				課	道路河川整備課			
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2	R3		R4						
総合計画体系	基本目標		1.安全で、利便性の高いまち										
	施策目標		4.安全で快適な交通環境が整うまち										
	実行計画名												

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業							
事業期間	1981(S56)年度		年度	~	年度まで							
根拠法令等	都市計画法											
関係補助金名称												サンセット
関係附属機関名称												
事業対象	メインターゲット	市域中心部と東部地域を結ぶ幹線道路周辺を利用する利用者。										
	サブターゲット											
	ターゲットが抱える課題	国道307号、府道杉田口禁野線の交通量が多く渋滞も発生しているため、防災機能が損なわれているため安全確保が必要である。										
	ターゲットが抱える課題											
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	国道307号、府道杉田口禁野線の交通網の強化を図り、地域住民の利便性や防災機能が向上されている。											
事業概要	・枚方市駅から府道田口禁野線まで(L=398.5m、W=16~27m)、及び府道杉田口線から国道307号まで(L=4,075.0m、W=12.5~27m)の都市計画道路整備を行う。											

2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル		枚方藤阪線の整備が進むにつれて、段階的に国道307号、府道杉田口禁野線の交通網の強化を図り、地域住民の利便性や防災機能が向上されている。				計画通りに枚方藤阪線の整備を進めることが出来る。				枚方藤阪線の整備を実施する。			
指標設定	指標説明	枚方藤阪線整備事業全体の進捗率				各年度における計画整備延長距離に対する実績整備延長距離の割合				枚方藤阪線の整備延長距離			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実績	0				0				0			
	達成度	100%				100%				100%			
分析	想定通りであった。				想定通りであった。				想定通りであった。				

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.15
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人員費	正職員、再任用、任期付	875	3,287	1,196	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人員費計	875	3,287	1,196	
	物件費計	0	0	0	0	—
歳出計		875	3,287	1,196		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計	0	0	0	0	
一般財源		875	3,287	0	0	

5. 総括的分析

総括的分析	指標の達成度については想定通りであった。 【実績】用地取得に向けた、用地交渉を行った。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、関係者との協議、用地取得、市駅周辺再整備事業(③街区)の整備に合わせ歩道整備工事を進める。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	樟葉駅前ロータリー改良事業										
測定年度	2020(R2)年度			部	土木部			課	道路河川整備課		
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2		R3		R4			
総合計画体系	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち									
	施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち									
	実行計画名	4-1.道路などの整備の推進									

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事業	区分	一般事務事業
事業期間	2018(H30)年度		年度	~	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	~
関係附属機関名称					
事業対象	メインターゲット	樟葉駅前広場ロータリーを利用する市民・路線バス事業者・利用者等			
	サブターゲット	—			
	ターゲットが抱える課題	樟葉駅前広場ロータリー内の交通混雑により路線バスの定時性や利用者の安全性が損なわれている。			
	ターゲットが抱える課題				
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	樟葉駅前広場ロータリー内の公共交通環境の整備により、路線バスの定時性や利用者の安全性が確保されるとともに、樟葉駅への交通機能アクセスの快適性や利便性の向上により、本市北部地域における交通結節点としての機能が向上している。				
事業概要	樟葉駅前広場ロータリー内では、朝夕の通勤・通学時間帯を中心に交通混雑が慢性化し、路線バスの定時性や利用者の安全性が損なわれるなどの交通問題が生じている。 本事業では、当該ロータリーの現地調査を踏まえた基本設計や実施設計により効果的・効率的な改善策を検討し、公共交通環境の整備を実施することで北部地域における交通結節点としての機能の向上を図る。				

2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル		樟葉駅前広場ロータリー内の公共交通環境の整備により、段階的に路線バスの定時性や利用者の安全性が確保されるとともに、樟葉駅への交通機能アクセスの快適性や利便性の向上により、本市北部地域における交通結節点としての機能が向上している。				計画どおりに樟葉駅前広場ロータリー改良工事を進めることができる。				樟葉駅前広場ロータリー改良工事を実施。			
指標設定	指標説明	樟葉駅前ロータリー改良工事事業全体の進捗率 【算出式:実績面積の合計/各年度における計画の樟葉駅前広場ロータリー改良工事面積の合計×100】				各年度における計画の樟葉駅前広場ロータリー改良工事面積に対する実績面積の割合 【算出式:実績面積/各年度における計画の樟葉駅前広場ロータリー改良工事面積×100】				樟葉駅前広場ロータリー改良工事面積			
	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)	22	51	100		100	100	100		1,900	2,500	4,100	
	実績	0				0				0			
	達成度	0%				0%				0%			
	分析	工事の契約締結及びバス・タクシー事業者との工程調整等の影響により想定よりも工事の着手が遅れた。				工事の契約締結及びバス・タクシー事業者との工程調整等の影響により想定よりも工事の着手が遅れた。				工事の契約締結及びバス・タクシー事業者との工程調整等の影響により想定よりも工事の着手が遅れた。			

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.80
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.20
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	4,214	4,009	6,380		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	429		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	4,214	4,009	6,809		
	物件費計	7,616	15,210	27,610	72,000	38%	
	歳出計	11,830	19,219	34,419			
歳入	国庫支出金	0	7,800	12,897	12,897		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	5,700	13,100	42,200		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	0	13,500	25,997	55,097		
	一般財源	11,830	5,719	1,613	16,903		

5. 総括的分析

総括的分析	想定よりも工事着手に遅れが生じたが、引き続き、バス・タクシー事業者と工事内容を共有し連携を図りながら安全に工事を進める必要がある。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、ロータリー改良工事を進めていく。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	北山通線整備事業												
測定年度	2020(R2)年度				部	土木部				課	道路河川整備課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4					
総合計画体系	基本目標		1.安全で、利便性の高いまち										
	施策目標		4.安全で快適な交通環境が整うまち										
	実行計画名		4-1.道路などの整備の推進										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業	
事業期間	2020(R2)年度		年度	~	2023(R5)年度	年度まで
根拠法令等	都市計画法					
関係補助金名称					サンセット	~
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	北山通線周辺道路を利用する利用者。				
	サブターゲット					
	ターゲットが抱える課題	新名神高速道路の開通により、通過交通の増加が予想されている。				
	ターゲットが抱える課題					
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	通過交通を円滑にアクセスさせることで渋滞を緩和させ、効率的な物流ネットワークを形成できている。					
事業概要	<p>本路線は、枚方市の北道部地域を南北に連絡し、都市計画道路内里高野道線及び令和5年開通予定の新名神高速道路への重要な幹線道路である。この中で大阪府が主体となって進めている内里高野道線整備と連携して整備を行うことで、自動車交通を円滑にアクセスでき、また、他府県との地域レベルの交流を強化することで物流ネットワークを形成することができる。</p> <p>【R2】 詳細設計 (L=0.12km , W=12~15m)</p> <p>【R3~R5】 整備工事3ヶ年 (L=0.12km , W=12~15m)</p>					

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)										
	北山通線の整備が進むにつれて、段階的に通過交通を円滑にアクセスさせることで渋滞を緩和させ、効率的な物流ネットワークを形成できている。	計画通りに北山通線の整備を進めることが出来る。	北山通線の整備を実施する。										
指標設定	指標説明	北山通線整備事業全体の進捗率	各年度における計画整備延長距離に対する実績整備延長距離の割合	北山通線の整備延長距離									
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標									
	指標数値	単位	%	単位	%	単位	m						
		目標 (見込み)	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4
	実績	0	25	50	100	100	100	100	100	0	40	80	120
	達成度	100%				100%				100%			
分析	想定通りであった。				想定通りであった。				想定通りであった。				

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.45
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	—	—	3,589	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	—	—	0	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人件費計	—	—	3,589	
	物件費計	—	—	3,120	43,000	7%
	歳出計	—	—	6,709		
歳入	国庫支出金	—	—	3,120	14,120	
	府支出金	—	—	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	—	—	0	0	
	市債	—	—	0	43,200	
	その他	—	—	0	0	
	歳入計	—	—	3,120	57,320	
	一般財源	—	—	0	▲ 14,320	

5. 総括的分析

総括的分析	指標の達成度については概ね想定通りであった。 【実績】整備に向けた詳細設計について着手した。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	目標達成に向け、関係者との協議、道路整備工事を進める。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	交通バリアフリー道路整備事業													
測定年度	2020(R2)年度				部	土木部				課	道路河川整備課			
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2		R3		R4						
総合計画体系	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち												
	施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち												
	実行計画名	4-2.交通安全対策の充実												

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	2018(H30)年度		年度	~	年度まで
根拠法令等	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律				
関係補助金名称					サンセット
関係附属機関名称					

事業対象	メインターゲット	鉄道駅及びその周辺における重点整備地区内の特定経路を利用する高齢者・障害者等
	サブターゲット	鉄道駅及びその周辺における重点整備地区内の特定経路を利用する市民・事業者等
	ターゲットが抱える課題	高齢者・障害者等が通行するにあたり、バリアフリー化が実現できていない歩道がある。
	ターゲットが抱える課題	

めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	鉄道駅及びその周辺における重点整備地区内の特定経路を利用する高齢者・障害者等の誰もが安心して安全快適に利用できている。
---------------------------	---

事業概要	<p>・ 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律に基づく「枚方市バリアフリー基本構想」、「星ヶ丘・村野駅周辺地区バリアフリー基本構想」により策定した道路特定事業計画により、重点整備地区5地区の生活関連経路のうち市道に関するバリアフリー化(歩道段差解消、勾配改良、誘導ブロック設置等)の整備を図る。</p> <p>◇ 計画のバリアフリー道路整備延長距離の合計:L=2,570m(重点整備地区5地区)</p> <p>◇ 実績延長距離の合計:L=200m</p> <p>・御殿山駅周辺地区:L=1,010m</p> <p>◇ R1年度整備予定延長距離:L=130m</p> <p>・宮之阪駅周辺地区:L=540m</p> <p>◇ R1年度詳細設計予定延長距離:L=540m</p> <p>・牧野駅周辺地区:L=570m、津田駅周辺地区:L=150m、星ヶ丘駅・村野駅周辺地区:L=300m</p>
------	--

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)									
	各重点整備地区のバリアフリー化が進むにつれて、段階的に鉄道駅及びその周辺における重点整備地区内の特定経路を利用する高齢者・障害者等の誰もが安心して安全快適に利用できている。	計画通りにバリアフリー道路整備を進めることができる。	バリアフリー道路整備を実施。									
指標設定	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)									
	バリアフリー道路整備事業全体の進捗率 【算出式:実績延長距離の合計/各年度における計画のバリアフリー道路整備延長距離の合計×100】	各年度における計画のバリアフリー道路整備延長距離に対する実績延長距離の割合 【算出式:実績延長距離/各年度における計画のバリアフリー道路整備延長距離×100】	バリアフリー道路整備延長距離									
	単位	単位	単位									
	%	%	m									
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標								
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	20	29	39	45	100	100	100	100	190	230	260	150
達成度	100%				100%				100%			
分析	想定通りであった。				想定通りであった。				想定通りであった。			

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.80
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	5,407	6,895	6,380	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人件費計	5,407	6,895	6,380	
	物件費計	11,850	20,459	24,803	24,000	103%
	歳出計	17,257	27,354	31,183		
歳入	国庫支出金	6,517	9,332	5,000	10,560	
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	6,800	13,400	13,400	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計	6,517	16,132	18,400	23,960	
	一般財源	10,740	11,222	6,403	40	

5. 総括的分析

総括的分析	指標の達成度については想定通りであった。 【実績】宮之阪駅周辺地区:宮之阪第13号線(延長距離:L=190m)の整備工事に着手し完了した。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、財政状況等を勘案し計画的にバリアフリー化整備事業を進めていく。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	市道尊延寺穂谷線拡幅事業													
測定年度	2020 (R2) 年度				部	土木部				課	道路河川整備課			
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2		R3		R4						
総合計画体系	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち												
	施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち												
	実行計画名													

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業	
事業期間	2001 (H13) 年度		年度	~	年度まで	
根拠法令等	決裁					
関係補助金名称					サンセット	~
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	市道尊延寺穂谷線を徒歩で小学校に通う児童				
	サブターゲット	市道尊延寺穂谷線を徒歩で利用する市民・事業者等				
	ターゲットが抱える課題	市道尊延寺穂谷線の幅員が狭い場所があり、通学路の安全確保ができていない。				
	ターゲットが抱える課題					
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	市道尊延寺穂谷線を徒歩で小学校に通う児童及び市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている。					
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校区等における通学路の安全確保に向けた取り組みを行うために策定された枚方市通学路交通安全プログラムに基づき、市道尊延寺穂谷線の拡幅整備事業を行い、通学路の安全確保を図る。 ◇ 計画の道路拡幅整備延長距離の合計:L=290m ◇ 実績延長距離の合計:L=133m ◇ R1年度整備予定延長距離:L=0m 					

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)	
	道路拡幅整備が進むにつれて、段階的に徒歩で小学校に通う児童及び市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている。	計画通りに道路拡幅整備を進めることができる。	道路拡幅整備を実施。	
指標設定	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)	
	道路拡幅整備事業全体の進捗率 【算出式:実績延長距離の合計/各年度における計画の道路拡幅整備延長距離の合計×100】	各年度における計画の道路拡幅整備延長距離に対する実績延長距離の割合 【算出式:実績延長距離/各年度における計画の道路拡幅整備延長距離×100】	道路拡幅整備延長距離	
	単位	単位	単位	
	%	%	m	
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	指標数値	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5
	目標 (見込み)	46 46 46 46	0 0 0 0	0 0 0 0
実績	0	0	0	
達成度	0%			
分析	道路用地の取得に向けた地権者との調整・協議が難航しているため事業を進められなかった。	道路用地の取得に向けた地権者との調整・協議が難航しているため事業を進められなかった。	道路用地の取得に向けた地権者との調整・協議が難航しているため事業を進められなかった。	

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	159	241	0	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人件費計	159	241	0	
	物件費計	0	0	0	0	—
	歳出計	159	241	0		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計	0	0	0	0	
一般財源		159	241	0	0	

5. 総括的分析

総括的分析	今後の事業展開について検討が必要。
-------	-------------------

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	地権者の動向や財政状況等を勘案し、事業の着手(再開)時期を検討していく。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	踏切道(交野・第一藤阪)拡幅事業												
測定年度	2020(R2)年度				部	土木部				課	道路河川整備課		
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2		R3		R4					
総合計画体系	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち											
	施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち											
	実行計画名												

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業	
事業期間	2014(H26)年度		年度	~	年度まで	
根拠法令等	決裁					
関係補助金名称					サンセット	~
関係附属機関名称						

事業対象	メインターゲット	市道王仁公園前線を徒歩で小学校に通う児童
	サブターゲット	市道王仁公園前線を徒歩で利用する市民・事業者等
	ターゲットが抱える課題	市道王仁公園前線の歩道に狭い場所があり、通学路の安全確保ができていない。
	ターゲットが抱える課題	

めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	市道王仁公園前線を徒歩で小学校に通う児童及び市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている。
---------------------------	---

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校区等における通学路の安全確保に向けた取り組みを行うために策定された枚方市通学路交通安全プログラムに基づき、市道王仁公園前線(第一藤阪踏切)の歩道拡幅整備事業を行い、通学路の安全確保を図る。 ◇ 計画の歩道拡幅整備延長距離の合計:L=56m ◇ 実績延長距離の合計:L=35m ◇ R1年度整備予定延長距離:L=0m
------	---

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)
	歩道拡幅整備が進むにつれて、段階的に徒歩で小学校に通う児童及び市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている。	計画通りに歩道拡幅整備を進めることができる。	歩道拡幅整備を実施。

指標設定	指標説明	歩道拡幅整備事業全体の進捗率 【算出式:実績延長距離の合計/各年度における計画の歩道拡幅整備延長距離の合計×100】	各年度における計画の歩道拡幅延長距離に対する実績延長距離の割合 【算出式:実績延長距離/各年度における計画の歩道拡幅延長距離×100】	歩道拡幅整備延長距離
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	指標数値	単位 %	単位 %	単位 m
	達成度	0%	0%	0%
	分析	道路用地の取得に向けた地権者との調整・協議に折り合いがつかないため、事業を進められなかった。	道路用地の取得に向けた地権者との調整・協議に折り合いがつかないため、事業を進められなかった。	道路用地の取得に向けた地権者との調整・協議に折り合いがつかないため、事業を進められなかった。
	指標数値	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5

ロジックモデル②	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)
	歩道拡幅整備が進むにつれて、段階的に徒歩で小学校に通う児童及び市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている。	踏切道(交野・第一藤阪)拡幅整備対象区画における、すべての用地を取得できる。	踏切道(交野・第一藤阪)拡幅整備に係る用地取得を実施。

指標設定②	指標説明	歩道拡幅整備事業全体の進捗率 【算出式:実績延長距離の合計/各年度における計画の歩道拡幅整備延長距離の合計×100】	歩道拡幅整備用地取得面積の合計に対する実績用地取得面積の割合 【算出式:実績用地取得面積の合計/歩道拡幅整備用地取得面積の合計×100】	歩道拡幅整備用地取得面積
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	指標数値	単位 %	単位 %	単位 m ²
	達成度	0%	0%	0%
	分析	道路用地の取得に向けた地権者との調整・協議に折り合いがつかないため、事業を進められなかった。	道路用地の取得に向けた地権者との調整・協議に折り合いがつかないため、事業を進められなかった。	道路用地の取得に向けた地権者との調整・協議に折り合いがつかないため、事業を進められなかった。
	指標数値	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5

3. 人員体制 (人)

	R2
正職員(再任用)	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	4,453	241	0	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人件費計	4,453	241	0	
	物件費計	399	0	0	0	—
	歳出計	4,852	241	0		
歳入	国庫支出金	0	0	0	0	
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計	0	0	0	0	
一般財源		4,852	241	0	0	

5. 総括的分析

総括的分析	今後の事業展開について検討が必要。
-------	-------------------

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	地権者の動向や財政状況等を勘案し、事業の着手(再開)時期を検討していく。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	自転車通行空間整備事業											
測定年度	2020(R2)年度			部	土木部			課	道路河川整備課			
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2		R3		R4				
総合計画体系	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち										
	施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち										
	実行計画名	4-2.交通安全対策の充実										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業
事業期間	2017(H29)年度		年度	~	年度まで
根拠法令等	決裁				
関係補助金名称				サンセット	~
関係附属機関名称					

事業対象	メインターゲット	自転車ネットワーク路線に位置付けられた市道を徒歩で利用する市民
	サブターゲット	自転車ネットワーク路線に位置付けられた市道を自転車で利用する市民等
	ターゲットが抱える課題	歩行者と自転車の錯綜により安全に通行できない環境である。
	ターゲットが抱える課題	

めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	自転車ネットワーク路線に位置付けられた市道を徒歩で利用する市民及び自転車で利用する市民等が安心して安全快適に利用できている。
---------------------------	--

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 枚方市自転車活用推進計画に位置付けられた枚方市主要鉄道駅周辺自転車ネットワーク計画に基づき、歩道を走行する自転車を車道に誘導し、安全で快適な自転車の通行空間及び歩行空間の整備を図る。 ◇ 計画の自転車通行空間整備延長距離の合計:L=32,600m ◇ 実績延長距離の合計:L=2,500m ・ 北部地区:L=9,400m ◇ R1年度整備予定延長距離:L=200m ◇ R1年度詳細設計予定延長距離:L=6,800m ・ 中部地区:L=5,800m ◇ R1年度整備予定延長距離:L=500m ・ 東部地区:L=6,000m ・ 南部地区:L=11,400m
------	---

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)	
	自転車通行空間整備が進むにつれて、段階的に自転車ネットワーク路線に位置付けられた市道を徒歩で利用する市民及び自転車で利用する市民等が安心して安全快適に利用できている。	計画通りに自転車通行空間整備を進めることが出来る。	自転車通行空間整備を実施。	
指標設定	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)	
	自転車通行空間整備事業全体の進捗率 【算出式:実績延長距離の合計/各年度における計画の自転車通行空間整備延長距離の合計×100】	各年度における計画の自転車通行空間整備延長距離に対する実績延長距離の割合 【算出式:実績延長距離/各年度における計画の自転車通行空間整備延長距離×100】	自転車通行空間整備延長距離	
	単位	単位	単位	
	%	%	m	
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標
	指標数値	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5	R2 R3 R4 R5
目標 (見込み)	10 13 16 24	100 100 100 100	200 1,000 1,100 2,500	
実績	10	100	200	
達成度	100%	100%	100%	
分析	想定通りであった。	想定通りであった。	想定通りであった。	

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.80
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	6,599	4,810	6,380		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	6,599	4,810	6,380		
	物件費計	47,295	17,330	7,784	9,600	81%	
歳出計		53,894	22,140	14,164			
歳入	国庫支出金	15,001	8,600	2,000	2,000		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	6,300	5,100	5,300		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	15,001	14,900	7,100	7,300		
一般財源		38,893	7,240	684	2,300		

5. 総括的分析

総括的分析	指標の達成度については想定通りであったが、今後の事業展開として既存道路の損傷修繕を含めた整備工事の検討が必要。 【実績】市道楠葉中央線：(1工区 延長距離:L=200m)の整備工事に着手し完了した。
-------	--

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、財政状況等を勘案し、他事業との調整・連携を図りながら計画的に自転車通行空間整備事業を進めていく。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	長尾船橋線道路空間再配分事業												
測定年度	2020(R2)年度			部	土木部				課	道路河川整備課			
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2		R3		R4					
総合計画体系	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち											
	施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち											
	実行計画名												

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業	
事業期間	2017(H29)年度		年度	~	年度まで	
根拠法令等	決裁					
関係補助金名称					サンセット	~
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	市道長尾船橋線の歩道を徒歩で小学校に通う児童				
	サブターゲット	市道長尾船橋線の歩道を徒歩で利用する市民・事業者等				
	ターゲットが抱える課題	市道長尾船橋線の大型交通量の増加や歩道の段差により通学児童をはじめとする歩行者の安全確保が必要である。				
	ターゲットが抱える課題					
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	市道長尾船橋線の歩道を徒歩で小学校に通う児童及び市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている。					
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校区等における通学路の安全確保に向けた取り組みを行うために策定された枚方市通学路交通安全プログラムに基づき、市道長尾船橋線の歩行空間を確保する等の道路空間再配分事業を図る。 ◇ 計画の道路空間再配分整備延長距離の合計:L=550m ◇ 実績延長距離の合計:L=0m ◇ R1年度整備予定延長距離:L=350m 					

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)									
	道路空間再配分整備が進むにつれて、段階的に歩道を徒歩で小学校に通う児童及び市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている。	計画通りに道路空間再配分整備を進めることが出来る。	道路空間再配分整備を実施。 (第2期工事:L=200m)									
指標説明	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)									
	道路空間再配分整備事業全体の進捗率 【算出式:実績延長距離の合計/各年度における計画の道路空間再配分整備延長距離の合計×100】	各年度における計画の道路空間再配分整備延長距離に対する実績延長距離の割合 【算出式:実績延長距離/各年度における計画の道路空間再配分整備延長距離×100】	道路空間再配分整備延長距離									
指標種類	単位	%	単位	%	単位	m						
	増加することが良いとされる指標		増加することが良いとされる指標		増加することが良いとされる指標							
指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5				
	目標 (見込み)	100				100			200			
実績	100				100				200			
達成度	100%				100%				100%			
分析	想定通りであった。				想定通りであった。				想定通りであった。			

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.80
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	5,009	4,490	6,380		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	5,009	4,490	6,380		
	物件費計	28,322	52,109	28,210	35,000	81%	
	歳出計	33,331	56,599	34,590			
歳入	国庫支出金	10,000	26,057	9,650	9,650		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	15,800	23,300		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	10,000	26,057	25,450	32,950		
	一般財源	23,331	30,542	2,760	2,050		

5. 総括的分析

総括的分析 指標の達成度については想定通りであった。
 【実績】長尾船橋線:(2工区 延長距離:L=200m)の整備工事に着手し完了した。

6. 今後の方向性

区分	終了
今後の取組方針	R2年度をもって長尾船橋線道路空間再配分事業(1工区 延長距離:L=350m 2工区 延長距離:200m 計:550m)が完了し目的を達成したため終了とする。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	中宮区第33号線他歩道フラット化整備事業													
測定年度	2020 (R2) 年度				部	土木部				課	道路河川整備課			
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2		R3		R4						
総合計画体系	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち												
	施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち												
	実行計画名													

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業	
事業期間	2018 (H30) 年度		年度	~	年度まで	
根拠法令等	決裁					
関係補助金名称					サンセット	~
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	市道中宮区第33・34号線の歩道を徒歩で小学校に通う児童及び学生				
	サブターゲット	市道中宮区第33・34号線の歩道を徒歩で利用する市民・事業者等				
	ターゲットが抱える課題	中宮区第33・34号線の歩道の段差により通学児童をはじめとする歩行者の安全確保が必要である。				
	ターゲットが抱える課題					
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	市道中宮区第33・34号線の歩道を徒歩で小学校に通う児童及び学生並びに市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている。					
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 小学校区等における通学路の安全確保に向けた取り組みを行うために策定された枚方市通学路交通安全プログラムに基づき、中宮区第33・34号線の歩行空間を確保する等の道路空間再配分事業を図る。 ◇ 計画の道路空間再配分整備延長距離の合計:L=630m ◇ 実績延長距離の合計:L=0m ◇ R5年度以降整備予定延長距離 <ul style="list-style-type: none"> 第1期工事:L=180m 第2期工事:L=260m 第3期工事:L=190m 					

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)	アウトプット (活動結果)	インプット (活動)	
	道路空間再配分整備が進むにつれて、段階的に歩道を徒歩で小学校に通う児童及び学生並びに市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている。	計画通りに道路空間再配分整備を進めることが出来る。	道路空間再配分整備を実施。	
指標設定	指標説明	各年度における計画の道路空間再配分整備延長距離に対する実績延長距離の割合 【算出式:実績延長距離/各年度における計画の道路空間再配分整備延長距離×100】	道路空間再配分整備延長距離	
	指標種類	増加することが良いとされる指標	増加することが良いとされる指標	
	指標数値	単位: %	単位: %	単位: m
	達成度	0%	0%	0%
	分析	事業内容に応じた財源(国費)の確保が困難であったため、事業を進められなかった。	事業内容に応じた財源(国費)の確保が困難であったため、事業を進められなかった。	事業内容に応じた財源(国費)の確保が困難であったため、事業を進められなかった。
	目標(見込み)	R2: 0, R3: 0, R4: 0, R5: 29	R2: 0, R3: 0, R4: 0, R5: 100	R2: 0, R3: 0, R4: 0, R5: 180
	実績	R2: 0, R3: 0, R4: 0, R5: 0	R2: 0, R3: 0, R4: 0, R5: 0	R2: 0, R3: 0, R4: 0, R5: 0

3. 人員体制 (人)

	R2
正職員(再任用)	0.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人員費	正職員、再任用、任期付	4,135	241	0	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人員費計	4,135	241	0	
	物件費計	8,557	0	0	0	—
歳出計		12,692	241	0		
歳入	国庫支出金	4,500	0	0	0	
	府支出金	0	0	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	歳入計	4,500	0	0	0	
一般財源		8,192	241	0	0	

5. 総括的分析

総括的分析	今後の事業展開について検討が必要。
-------	-------------------

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	他事業との調整・連携を図るとともに財政状況等を勘案し、事業の着手時期を検討していく。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	歩道拡幅整備事業(枚方新香里線)											
測定年度	2020(R2)年度				部	土木部			課	道路河川整備課		
市長公約との関係	所信表明	○	市政運営方針	R2		R3		R4				
総合計画体系	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち										
	施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち										
	実行計画名	4-2.交通安全対策の充実										

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	選択的事业	区分	一般事務事業	
事業期間	2020(R2)年度		年度	~	2022(R4)年度	年度まで
根拠法令等	決裁					
関係補助金名称						サンセット
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	市道枚方新香里線を徒歩で小学校に通う児童				
	サブターゲット	市道枚方新香里線を徒歩で利用する市民・事業者等				
	ターゲットが抱える課題	市道枚方新香里線の歩道に狭い場所があり、通学路の安全確保ができていない。				
	ターゲットが抱える課題					
めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)	市道枚方新香里線の歩行空間の確保により、徒歩で小学校に通う児童及び市民・事業者等が安全・安心して円滑に移動することができる。					
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校区等における通学路の安全確保に向けた取り組みを行うために策定された枚方市通学路交通安全プログラムに基づき、市道枚方新香里線の歩道拡幅整備事業を行い、通学路の安全確保を図る。 ・R2年度: 詳細設計予定 ・R3年度: 用地取得予定(面積: 約97㎡) ・R4年度: 整備工事予定(延長: 約210m) 					

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム(活動効果)	歩道拡幅整備が進むにつれて、段階的に徒歩で小学校に通う児童及び市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている。				アウトプット(活動結果)	計画通りに歩道拡幅整備を進めることができる。				インプット(活動)	歩道拡幅整備を実施。			
	指標説明	歩道拡幅整備事業全体の進捗率 【算出式: 実績延長距離の合計/各年度における計画の歩道拡幅整備延長距離の合計×100】				各年度における計画の歩道拡幅整備延長距離に対する実績延長距離の割合 【算出式: 実績延長距離/各年度における計画の歩道拡幅整備延長距離×100】				歩道拡幅整備延長距離					
指標設定	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標					
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5		
	目標(見込み)	0	0	100		0	0	100		0	0	210			
	実績	0				0				0					
	達成度	0%				0%				0%					
分析	R2年度に歩道拡幅整備に伴う詳細設計業務委託を実施し指標となる「各年度における計画の歩道拡幅整備延長距離の合計」を把握				R2年度に歩道拡幅整備に伴う詳細設計業務委託を実施し指標となる「各年度における計画の歩道拡幅整備延長距離」を把握				R2年度に歩道拡幅整備に伴う詳細設計業務委託を実施し指標となる「歩道拡幅整備延長距離」を把握						
ロジックモデル②	アウトカム(活動効果)	歩道拡幅整備が進むにつれて、段階的に徒歩で小学校に通う児童及び市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている。				アウトプット(活動結果)	歩道拡幅整備に係るすべての用地を取得できる。				インプット(活動)	歩道拡幅整備に係る用地取得を実施。			
	指標説明	歩道拡幅整備事業全体の進捗率 【算出式: 実績延長距離の合計/各年度における計画の歩道拡幅整備延長距離の合計×100】				歩道拡幅整備用地取得面積の合計に対する実績用地取得面積の割合 【算出式: 実績用地取得面積の合計/歩道拡幅整備用地取得面積の合計×100】				歩道拡幅整備用地取得面積					
指標設定②	指標種類	増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標					
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5		
	目標(見込み)	0	0	100		0	100	0		0	97	0			
	実績	0				0				0					
	達成度	0%				0%				0%					
分析	R2年度に歩道拡幅整備に伴う詳細設計業務委託を実施し指標となる「各年度における計画の歩道拡幅整備延長距離の合計」を把握				R2年度に歩道拡幅整備に伴う詳細設計業務委託を実施し指標となる「歩道拡幅整備用地取得面積の合計」を把握				R2年度に歩道拡幅整備に伴う詳細設計業務委託を実施し指標となる「歩道拡幅整備用地取得面積」を把握						

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.65
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率
歳出	人員費	正職員、再任用、任期付	—	—	5,184	
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	—	—	0	
		特別職非常勤	—	—	0	
		附属機関委員	—	—	0	
		人員費計	—	—	5,184	
	物件費計	—	—	1,350	6,000	23%
歳出計		—	—	6,534		
歳入	国庫支出金	—	—	1,350	1,350	
	府支出金	—	—	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	—	—	0	0	
	市債	—	—	0	3,500	
	その他	—	—	0	0	
	歳入計	—	—	1,350	4,850	
一般財源		—	—	0	1,150	

5. 総括的分析

総括的分析	R2年度は事業概要の年次計画にそって詳細設計を実施した。
-------	------------------------------

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、歩道拡幅整備事業を進めていく。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	枚方市駅周辺再整備事業														
測定年度	2020 (R2) 年度				部	土木部				課	道路河川整備課				
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4							
総合計画体系	基本目標		4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち												
	施策目標		18.人々が集い賑わい、魅力あふれる中心市街地のあるまち												
	実行計画名		18-1.枚方市駅周辺の賑わいの創出												
1. 事務事業の概要															
種類	市民サービス			特性	選択的事业				区分	一般事務事業					
事業期間	2018 (H30) 年度				年度	~			年度まで						
根拠法令等	決裁														
関係補助金名称									サンセット	~					
関係附属機関名称															
事業対象	メインターゲット		枚方市駅周辺の商業施設及び交通機関を利用する利用者。												
	サブターゲット		南部地域の交通網の強化を図り、通学路の確保や地域住民の利便性と防災機能が向上される。												
	ターゲットが抱える課題		枚方市駅北口周辺の交通渋滞が発生しており、また医療機関への通院者、通学者等も多く通行しているため、安全確保が必要である。												
	ターゲットが抱える課題														
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	枚方市駅周辺再整備ビジョンにもとづき外周道路の整備、歩行者動線の整備により、安全な歩行空間が確保でき、渋滞が解消している。														
事業概要	<p>【平成28年度~】</p> <p>枚方市駅周辺再整備ビジョン対象エリアの土地利用や事業手法等の検討を行い、これらと並行して地元検討組織等の設立に向けた支援や関係権利者等との意見交換を行った。また、枚方市駅北口・南口駅前広場の拡充、外周道路の整備、歩行者動線の整備についての概略検討を実施。</p> <p>これらの検討をもとに順次、歩行者動線の整備 (L= 123m)、エスカレーター設置 (L= 15m)、外周道路の整備 (L = 140m)、京阪枚方市駅の高架下利用 (L = 70m) に取り組む。</p>														
2. ロジックモデル及び指標設定															
ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)						
	枚方市駅周辺再整備ビジョンにもとづき外周道路の整備、歩行者動線の整備が進むにつれて、段階的に安全な歩行空間が確保でき、渋滞が解消している。				「枚方市駅周辺再整備ビジョン」に基づき計画通りに再整備を実施する。				枚方市駅周辺の再整備を実施する。						
指標設定	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)						
	枚方市駅周辺再整備(所管分)全体の進捗率				各年度における計画整備延長に対する実績整備延長の割合				枚方市駅周辺の再整備を実施した延長						
	単位 %				単位 %				単位 m						
	指標種類				増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標						
	指標数値		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	
	目標(見込み)		7	69	69	100	100	100	100	100	15	140	0	70	
実績		7				100				15					
達成度				100%				100%				100%			
分析				想定通りであった。				想定通りであった。				想定通りであった。			

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.47
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「人員費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	2,949	3,688	3,748		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	0		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	2,949	3,688	3,748		
	物件費計	18,463	93,231	129,572	83,277	156%	
	歳出計	21,412	96,919	133,320			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	42,900	84,200	74,900		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	0	42,900	84,200	74,900		
	一般財源	21,412	54,019	45,372	8,377		

5. 総括的分析

総括的分析	指標の達成度については想定通りであった。 【実績】エスカレーター設置(L=15m)を行った。用地取得に向けた、用地交渉を行った。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	引き続き、関係者との協議、用地取得、詳細設計、道路整備工事を進める。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	道路河川整備課運営事務										
測定年度	2020(R2)年度			部	土木部			課	道路河川整備課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2		R3		R4			
総合計画体系	基本目標	9.施策体系外									
	施策目標	99.施策体系外									
	実行計画名										

1. 事務事業の概要

種類	内部管理	特性	庶務的事務	区分	庶務的内部管理事務	
事業期間	不明		年度	~	年度まで	
根拠法令等	決裁					
関係補助金名称					サンセット	~
関係附属機関名称						
事業対象	メインターゲット	課職員				
	サブターゲット					
	ターゲットが抱える課題	課の運営を円滑に図る必要がある。				
	ターゲットが抱える課題					
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)	他部署との連絡調整、課内での情報の共有化を行い適正かつ迅速に業務を行う。					
事業概要	行政評価及び事業計画等に関する事務 ・庁内外への照会・回答処理事務 ・財務会計事務 等					

2. ロジックモデル及び指標設定

		アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル													
指標設定	指標説明												
	指標種類	単位				単位				単位			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標 (見込み)												
	実績												
	達成度												
	分析												

3. 人員体制 (人)	
	R2
正職員(再任用)	0.51
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.12
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の person 費については、人員配置をもとに平均 person 費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、H30年度、R1年度の「person 費_会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員 person 費」「臨時職員 person 費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、H30年度、R1年度は person 費に充当されるものも含まれています。(千円)

4. 決算額

		H30決算額	R1決算額	R2決算額	(参考)R2予算額	(参考)予算執行率	
歳出	人件費	正職員、再任用、任期付	3,180	2,886	4,067		
		会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	0	0	257		
		特別職非常勤	—	—	0		
		附属機関委員	—	—	0		
		人件費計	3,180	2,886	4,324		
	物件費計	0	0	310,523	311,039	100%	
歳出計		3,180	2,886	314,847			
歳入	国庫支出金	0	0	0	0		
	府支出金	0	0	0	0		
	受益者負担(使用料・手数料)	0	0	0	0		
	市債	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0		
	歳入計	0	0	0	0		
一般財源		3,180	2,886	310,523	311,039		

5. 総括的分析

総括的分析	各種庶務関係事務を正確かつ迅速に処理した。
-------	-----------------------

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	各種庶務関係事務を正確かつ迅速に処理する。